

## 第5学年1組 図画工作科学習指導案

### 1. 題材名 でこぼこ広場から思い付いたよ！ A表現 (2) 絵に表す

### 2. 題材設定の理由

○ 本学級児童は、明るく素直で何事においても集中して取り組むことができる。また、図画工作科の学習を好む児童は多く、アンケートでは、90%の児童が、「図画工作科の学習が好きである」と答えている。その中でも、「絵をかくことが好き」と答えた児童の割合は100%だった。1学期の「春を感じて」の学習では、自分自身が感じた春に合うように、絵の具・クレヨン・パスなどの描画材料を選んだり、混色や重色などこれまで経験した技法を生かしたりして表現活動を楽しんだ。しかし、形や色などから発想を広げ、表現を追求しようという思いをもつまでにはいたっていない。

そこで、本題材では、身の回りにある様々なものを画面に貼り付け、形や手触りを楽しみながら画用紙とは違うでこぼこした画面をつくり、想像したり、考えたりして色を付け、自分の表したい世界を思い付くままに自由に表現することができるようにしたい。

○ 本題材では、画面に身の回りの物を自由に配置し、液体粘土で固めた、でこぼこした画面から想像を広げ、思い付いたものをかく活動を通して、試したり見付けたり考えたりして、思い付く力を培うことをねらいとしている。

題材の導入の段階においては、自分たちの身の回りにある、使ってみたい材料をなるべく多く集めることで、多様な材料の中から、材料の感触や質感の違いを意識して、配置できるようにし、児童の題材への意識を高めるようにしたい。しかし、材料を集めながら「こんな絵を描こう、だからこんな形をここに貼り付けることにしよう」等と考える児童が多くいると思われる。ここでは、その考えをさらに広げることが大切なことになってくる。

画面に様々な素材を配置していく前半の活動では、あらかじめ考えた表したいことに向けて画面を構成していくのではなく、自分の使いたい素材の感触や質感を味わいながら、思いのままに画面を構成する楽しさや喜びを十分に味わえるようにする。自分だけのオリジナルのでこぼこ広場をつくり上げながら、作品としっかり向き合い対話する場を十分確保することで、そこから自分の発想や感覚を広げ、自分だけの表現を追求できるようにする。

でこぼこした画面から発想した自分のイメージを絵の具で表現していく後半の活動では、でこぼこした画面から想像を広げ、思い付いたものをかく活動を通して、試したり見付けたり考えたりして思い付く力を培いたい。つまり、試行錯誤を繰り返しながら、自分の表現を広げていくことの楽しさを味わわせていきたい。その過程においては、失敗してしまったと思った線が新しいイメージを湧き起こしたり、上から塗り重ねることで新たな表現のきっかけになったりするという本題材のよさをしっかりと児童に理解させることで、失敗を恐れずに自分の表現を広げられるようにしていく。

また、各学習段階において、ワークシートなどを活用しながら、友達と交流し、自分の思いや考えを広げたり深めたりする場（パレットタイム）を適切に設けることで、多様な表現方法に気づき自分の表現をさらに広げ、深めることができるようにしていきたい。

### <小中連携の視点から>

これまでの画用紙とは違う自分のつくった、自分だけの画面の材質感や形に面白さを感じながらも、造形的な特徴をとらえ、ここから自分が表現をしてみたい思いやイメージをもたせる。偶然に生まれた形から表したいイメージを膨らませる活動、つまり発想力を伸ばす学習をこの時期に行うことはとても道大切である。今後の学習において発想を広げることにつながる。

また、材料や用具の選定、色を付ける時の手の動かし方、水加減、色の組み合わせなど、表し方を試行する中から、表すことの楽しさや心地よさを十分に味わわせるようにすることで、表現することの幅を広げさせる。この様な経験が中学校美術科の表現の学習に直接発展していく力となる。

## 3. 研究の着眼点

### 【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

「であう」の段階では、液体粘土で身の回りの物を固めた数種類の白いでこぼこの画面を参考作品として見せたり触らせたりすることによって、凹凸の形やその影、ざらつきなどの面白さに気づき、材料集めをしようという意欲を高める。

「みつける・あらわす」の画面に様々な素材を配置していく段階では、基盤となる段ボールや厚紙をいろいろな形に切ったものを準備しておき、それらを組み合わせて、今まで使ってきた画用紙以外の形を児童自らが発見できるようにする。その後、段ボールや厚紙を切ってよいことを知らせ、画面の形からも児童のイメージを誘発できるようにする。でこぼこ広場から発想した自分のイメージを絵の具で表現していく段階では、自分がつくったでこぼこ画面を卓上イーゼルに置いて、遠くから見たり近くから見たり角度を変えて見たりしながら、自分のイメージを膨らませるようにする。

「あじわう」段階でも、作品にひもをつけぶら下げたり、卓上イーゼルに立てかけたりして、校舎内の自分が飾りたいところに置いて相互に見合うようにする。

### 【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

「であう」段階では、いろいろな身近材料を触りながら、その触り心地について話し合ったり、どんな材料を重ねたり、並べたり、つないだりするとどんなでこぼこ画面になるかを考えたりすることで、でこぼこ画面をつくろうという意欲をもつことができるようにする。

「みつける・あらわす」段階では、できたでこぼこ画面から全体の形や色はどのようにするかという視点を投げかけ、グループで自分の思いを伝え合うことにより、一人一人の思いを確かなものにしたり、イメージを広げたりすることができるようにする。

「あじわう」段階では、いろいろな所に展示した作品を見ながら、感じたことを話し合うことで、成就感や満足感を味わわせるようにする。

### 【視点3】つくりだすことに熱中するための教師の支援を工夫する視点から

図工ノートや自己評価カードをもとに、一人一人の発揮している資質・能力を捉え、別の指導が必要な児童には手立てを考える。具体的には、つまづいている児童には、友達の商品を見たり、商品について語っていることを聞いたりしながら、自分の商品づくりに取り入れたり参考にしたりするようにする。さらに、材料や用具を紹介したり、発想を変えたり画面をいろいろな方向から見るように助言したりしながら、児童が自分で考え、自分に合った表現方法を選択できるようにする。色を付けることで失敗したと感じている児童には、液体粘土を上からかけると、やり直すことができることを知

らせ、試行錯誤を繰り返しながら、表現活動そのものを楽しむことができるようにする。

#### 4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 身の回りにある材料を白く固める面白さに関心を持ち、でこぼこ画面づくりを楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ でこぼこやざらつきなど、材質による感触の違いなどを感じ、思いを広げる。
創造的な技能	○ 画面の特徴を生かす材料や技法を選んで工夫する。
鑑賞の能力	○ 画面の形を生かした発想や表し方を感じ、認め合うことができる。

#### 5. 指導計画と評価計画 (総時間 6時間)

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
であう みつけ る・あ らわ す	<p>1. これまでの画用紙とは違うでこぼこの画面づくりについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">0.5</p> <p>○ 参考例を見て、画面がどんな材料で作られているかを見付け話し合う。身近にあるものを使って、自分だけの画面づくりができることに思いをふくらませる。</p>	<p>○ 参考例は、小さな紙に材料を貼り付け、液体粘土をぬった簡単なものにする。</p>	<p>【関】身の回りにある材料を白く固める面白さに関心を持ち、自分なりのでこぼこ画面づくりを楽しもうとしている。(行動観察)</p>
あ じ わ う	<p>2. 自分が選んだ材料で画面づくりをする。</p> <p style="text-align: center;">2.5</p> <p>○ 集めたものを触ったり、気に入ったものを並べたり、積んだり試行しながら配置し、画面をつくり、偶然にできた空間画面から受けるイメージをふくらませる。</p>	<p>◎ <u>できた画面の形や色、材質感などから感じたことやイメージしたことを言葉で表し、友達と交流させながら、かきたいもののイメージをもたせるようにする。</u></p> <p>○ 友達の発表を聞いたり、作品を鑑賞したりする時間を設定し、発想や構想、表し方のよさを見付け、認め合えるようにする。</p>	<p>【発】材料を選び、材質による感触の違いなどを感じ、画面づくりすることから構想している。</p> <p style="text-align: right;">(材料、行動観察)</p>

<p>3. 画面をつくる過程で思い付いたことやできた画面の特徴からイメージしたことをもとに想像を広げてかく。</p> <p>＜本時 1/2.5＞</p> <p>4. 鑑賞会を開き、互いのよさを感じ取る。</p> <p>0.5</p> <p>○ 友達の発表を聞いたり、作品を自由に鑑賞したりする時間を設定し、発想や構想、表し方のよさを感じ取る。</p>		<p><b>【創】画面の特徴を生かす材料や技法を選びながら、表現に生かす工夫をしている。（作品、行動観察）</b></p> <p><b>【鑑】画面の形を生かした発想や表し方のよさに気づき、認め合っている。（発言、鑑賞カード）</b></p>
---	--	--

6. 本時の学習 平成 27 年 10 月 2 日（金） 第 5 校時 図工室

(1) 主眼

でこぼこ広場の画面の特徴から発想したものをかく活動を通して、色使いや用具などを工夫することができるようにする。

(2) 準備

- ①教師 共用絵の具（ポスターカラー）・水彩絵の具・筆・刷毛・スポンジ・歯ブラシ・あみ・クレヨン・パス・油性ペン・卓上イーゼル・参考作品
- ②児童 水彩絵の具道具

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法）
であう	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1) つくったでこぼこ広場をみんなで見合う。</p> <p>(2) 友達がつくったでこぼこ広場についての発表を聞く。</p>	<p>○ 自分のつくったでこぼこ広場に作品から発想した表したいことを紙に書いてはり、図工室内に展示しておく。</p> <p>○ 展示されたでこぼこ広場をみんなで見合うことにより、友達の作品の表したいことを自分の作品づくりの参考にすることができるようにする。</p> <p>○ 児童が製作の過程や表したいことを発表し、その思いをみんなで共有することによって、表したいことが浮かばない児童が、自分の表したいことを見付けるきっかけになるようにする。</p>
<p>めあて でこぼこ広場に自分の表したいことに合う色を付けよう。</p>		

み  
つ  
け  
る  
・  
あ  
ら  
わ  
す

2. 自分の表したいことに合わせて、  
でこぼこ広場に色をつける。



イメージは浮かんで  
いるんだけど、どう  
したらいいかな。  
向きを変えてみよ  
うかな…。

海の世界だから、ま  
ず、濃い青でぬろう。



虹色にして夢の世  
界にしよう。



ザラザラしたところ  
に明るい色をぬった  
ら、やわらかい感じに  
なったよ。



失敗したと思ってい  
たけれど、上から所々  
に赤い色をぬったら、  
いい感じになったよ。



どうしたら湖の感じ  
が出るのかな…？  
この画面の高さを生  
かして、下の方を濃  
くしてみようかな。

薄い色から重ねてい  
けば、きれいな感じに  
仕上がったよ。



細かいところは油性ペ  
ンを使って表してみたよ。



凸凹があるので、色を  
付けただけでも何だ  
か楽しい作品になっ  
てきたので、さらにイ  
メージを広げること  
ができそうだな。



3. 作品を見せ合い、次の学習への  
見通しをもつ。

○ どんどん活動を始めている児童に対しては、賞賛し、  
さらに意欲的に活動を進めていくことができるようにす  
る。

◎ できた画面の材質感や形などから感じたことや表した  
いことを、友達と交流させながら、表したいことの想像を  
広げることができるようにする。

◆一人一人のつまずきへの支援

◇発想・構想面の能力を働かせる場面でのつまずき



- イメージに向かって何をしたらよいか迷っている児童
  - ・画面の向きを変えて見るようにする。
  - ・近くの友達と画面のイメージについて話し合う。
  - ・好きな色をつけながら、考えていくようにする。
- 行きづまっていたり、イメージ通りにいっていないと感じたりしている児童
  - ・友達の作品づくりの様子を見て回り、自分の作品づくりの参考にするようにする。
  - ・卓上イーゼルに立てかけて角度を変えて見たり、近くの友達と作品について話し合ったりしながらイメージを膨らませるようにする。

◇創造的技術面の能力を働かせる場面でのつまずき



- 色のつけ方で迷っている児童
  - ・友達の作品づくりの様子を見て回り、自分の作品づくりの参考にするようにする。
  - ・いろいろな描画材料や用具を紹介する。
- 彩色に失敗したと感じている児童
  - ・濃い色を重ねるようにする。
  - ・他の色を重ねて、重色を楽しむようにする。
  - ・液体粘土を上からかけて消す方法を知らせる。

【創】画面の特徴を生かす材料や技法を選びながら、表現に  
生かす工夫をしている。(作品、行動観察)

○ 何枚かの作品を見せて、色の付け方について工夫したこと  
や気を付けたことなどについて話し合うことで、次の学  
習への意欲や見通しをもつことができるようにする。

【鑑】画面の形を生かした発想や表し方のよさを感じ取って  
いる。(発言、行動観察)

